

## 2018年度 教育学部 自己推薦入試 問題・解答用紙

No. A

受験番号					
氏名					

「小論文」  
初等教育学専攻

採点欄

## 問題 A

次の問いに答えなさい。

1. 次の英文を和訳しなさい。

To form the foundation of pupils' communication abilities through foreign languages while developing the understanding of languages and cultures through various experiences, fostering a positive attitude toward communication, and familiarizing pupils with the sounds and basic expressions of foreign languages. (文部科学省 HP より)

2. 上記は小学校の教育課程において、何と呼ばれる教科と考えられるか。また、それについて今、どのような課題があるか述べなさい。

**裏面使用不可**

受験番号					
氏名					

## 「小論文」 初等教育学専攻

### B 問題

次の文を読んで後の問いに答えなさい。

#### 霜柱の素朴な研究

北国からは早くも初冠雪や初霜の知らせが届きだした。都会はすっかり舗装されてしまったが、私が小学生の頃はまだ、寒い朝、通学の路傍のあちこちの地面に霜柱ができていた。それを運動靴で踏んでいくと、ウェハースをかむようにさくさくと気持ちのよい音がした。

霜柱とは、土の中の水分が凍って地面を押し上げたもの、と思われがちだが、話はそんなに簡単ではない。実はここにちょっとしたミステリーがある。霜柱を形成する水の量は、もともとその厚みに含まれていた水の量よりずっと多いのだ。水はいったいどこからくるのだろうか？

氷と雪の研究で有名な中谷宇吉郎の随筆を読んでいたら面白い記述があった。戦前、身近な霜柱の生成に興味をもった子どもたちがいた。自由学園の女子生徒たちである。彼女たちは凍てつく夜、霜柱に目印をつけたり、ブリキ缶を埋めたりして実験を重ね、ついに水が毛細管現象で地中深くから吸い上げられることを突き止めた。中谷は「この研究にとりかかられた娘さんたちの勇気には、おおいに敬服した」「無邪気なそして純粋な興味が尊いのであって、よい科学的な研究をするにはそのような気持ちが一番大切なのである」と高く評価した。素朴な疑問から出発した素朴な研究であっても専門家を瞠目させることがある。科学の萌芽は霜柱の成長に似ている。

福岡伸一『福岡伸一の動的平衡』朝日新聞連載記事より

※Web公開にあたり、著作権者の要請により出典追記しております。  
福岡伸一の動的平衡 朝日新聞 2017/10/19 コラム第35面  
朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。  
承諾番号：18-6071

問1 文中「科学の萌芽は霜柱の成長に似ている」とは一体どういうことですか。  
400字以上600字以内でわかりやすく説明してください。

問2 この霜柱の研究のように、「素朴な疑問から出発した素朴な研究」の例を、自分や仲間の経験をもとに、わかりやすく紹介する文を書いてください。(400字以上600字以内)



